

第23回KYOのあけぼの フェスティバル 2011

～私たちが「今」できること～ ^{いのち} 生命・地域 絆

報告書

日時：平成23年11月23日（水・祝） 10時～15時

会場：京都テルサ（京都市南区東九条下殿田町70）

主催

KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会・京都府・京都府男女共同参画センター さら京都

海外研修KYOのあけぼの会、京都市地域女性連合会、京都商工会議所女性会、京都女性スポーツの会、
京都府更生保護女性連盟、京都府商工会議所女性会連合会、京都府商工会女性部連合会、
京都府食生活改善推進員連絡協議会、京都府女性の船「ステップあけぼの」、京都府生活研究グループ連絡協議会、
（福）京都府母子寡婦福祉連合会、京都府民生児童委員協議会、京都府連合婦人会、
国際ソロプチミスト京都近郊12クラブ、国際ゾンタ京都I・II・雅ゾンタクラブ、社会環境浄化京都ネットワーク、
部落解放同盟京都府連合会女性部、JA京都府女性組織協議会



目 次

プログラム	2
写真	3
【主催者挨拶】京都府知事 山田啓二	4
【主催者挨拶】KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会委員長 田中田鶴子	5
【祝辞】京都府議会議長 近藤永太郎 様	6
【講演】震災後日本の針路と男女共同参画 株式会社日本政策投資銀行 地域振興グループ参事役 藻谷浩介さん	8
実行委員会企画	16
ワークショップ	17
あけぼのバザール	22
市町村との協働事業	24
新聞記事	26
講演・協賛団体	28



第23回KYOのあけぼのフェスティバル2011

～私たちが「今」できること～ いのち 生命・地域 絆

京都府では、男女が社会の対等な構成員として、さまざまな活動に参画し、輝くことができる男女共同参画社会をめざして、毎年、KYOのあけぼのフェスティバルを開催しています。

今年度は、2011年3月11日に発生した東日本大震災をうけ、生命や地域、人々との絆の大切さと、それを守るために私たちができることを考えるテーマで実施しました。

オープニングでは、京都聖母学院小学校合唱団のみなさんに合唱を披露いただきました。

講演では日本政策投資銀行参事役で、東日本大震災の復興構想会議で専門委員を務めておられる藻谷浩介さんから、震災後の日本経済の実情と、地域活性化の鍵となるワーク・ライフ・バランスの回復についてお話いただきました。

また、NPO法人、大学生、地域団体等や実行委員会構成団体による多種多彩なワークショップや、実行委員会構成団体、男女共同参画センター起業セミナー修了生等との協働によるあけぼのバザールを展開し、地域社会づくりや世代間の交流、ネットワークの拡大強化を図りました。

プログラム

10:00~10:20 オープニング

at ■ テルサホール

京都聖母学院小学校合唱団

曲目：祈るように、もみじ、故郷、青い地球は誰のもの

10:20~11:00 式典「京都府あけぼの賞表彰式」

at ■ テルサホール

11:00~12:20 講演「震災後日本の針路と男女共同参画」

at ■ テルサホール

講師：株式会社日本政策投資銀行

地域振興グループ参事役 藻谷浩介さん

13:00~15:00 ワークショップ

at ■ テルサ内各会場

10:00~15:00 あけぼのバザール

at ■ テルサ内各会場



オープニング

京都聖母学院小学校 合唱団



式典



あけぼの賞表彰式



写真左から

いけのぼう ゆき
池坊由紀さん(華道家、華道家元池坊次期家元)
えじり みつむ
江尻省さん(国立極地研究所助教)
みずのかよこ
水野加余子さん(京都女性スポーツの会会長)

講演

「震災後日本の針路と男女共同参画」

講師：株式会社日本政策投資銀行

地域振興グループ参事役

も、たにこうすけ
藻谷浩介さん



主催者挨拶

京都府知事 山田啓二



京都聖母学院小学校の皆さんの爽やかな、また可愛らしい歌声で「第23回KYOのあけぼのフェスティバル2011」が幕を開けました。今年も府内の各地から多くの皆様に御参加をいただき、厚くお礼申し上げます。

本日、「京都府あけぼの賞」を受賞されます、華道家で池坊次期お家元の池坊由紀様、国立極地研究所助教の江尻^{みつむ}省様、京都女性スポーツの会会長の水野加余子様、心からお祝いを申し上げます。

この賞は京都府独自のもので、男女共同参画による豊かな地域社会の創造に向けて、女性の一層の能力発揮を図るため、各分野で功績の著しい女性の皆様に顕彰するもので、KYOのあけぼのフェスティバルに併せて、表彰させていただいております。改めて皆様のこれまでの御功績と素晴らしい御努力に深く感銘いたしますとともに、今後の更なる御活躍をお祈りいたします。

また、本フェスティバルの開催に当たり、企画から運営まで熱心にお取り組みいただいた田中鶴子実行委員長をはじめ実行委員の皆様、関係の皆様方に、心からお礼を申し上げます。

今年のフェスティバルは「～私たちが「今」できること～^{いのち}生命・地域 絆」をテーマに開催しております。御存知のように今年3月11日、大変な災害になりました東日本の大震災が発生し、今も被災地は厳しい状況が続いております。特に福島県を中心にまだまだ故郷、生まれ育った地に帰れない方々がたくさんおられ、更に岩手や宮城ではがれきの山のなかで動きがとれない状況にあるなど、これから復旧復興に向けて私たちが協力していかなければならないことがたくさんあると考えております。

しかしながら、こうした被災を通して人々が支え合い、助け合い、絆をしっかりとお互いに結び合っていく姿に、私たちが忘れていた地域社会の素晴らしさというものを、改めて教えていただいたような気がいたします。

京都府では、誰もが様々な活動に参画し、輝くことができる社会をめざして、第3次のKYOのあけぼのプランを策定いたしました。もう一度、今回の大震災を振り返りながら、このあけぼのプランの実現に向けて全員で力を合わせてがんばっていくことにより、未来の子どもたちが生き生きと自分達の能力を発揮でき、全員が支え合う社会を皆さんとともに作りあげていくことができたらと改めて考えているところです。

また、「子どもや家族、自分のための時間を大切にしながら、仕事もがんばる」、そんな仕事と生活の調和が実現できる社会を作るんだという思いを込めて、昨年はマザーズジョブカフェを開設し、この11月には、ここ京都テルサに「京都ワーク・ライフ・バランスセンター」を開設いたしました。さらに皆様方とともにこうした形で男女共同参画社会の実現に向けて歩みを進めていきたいと考えております。

先日閉会しました国民文化祭におきましても大勢の皆様に参加いただき、地域の素晴らしさというものを老若男女問わず確かめることができたのではないかと考えております。そうした地域社会の発展のためにも引き続き皆様の御協力を賜りたいと考えております。

結びに当たり、本日御参加の皆様方の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、私のあいさついたします。



皆様おはようございます。本日は「第23回KYOのあけぼのフェスティバル2011」を開催いたしましたところ、御来賓の皆様方をはじめ多くの方々にお集まりをいただき、厚く御礼申し上げます。

はじめに、本日栄えある「京都府あけぼの賞」を受賞されます皆様方に、心からお祝い申し上げます。今年度も、各分野で先駆的に活躍され、輝いておられる女性が表彰されます。御受賞をお慶び申し上げますとともに、引き続きの御活躍を心からお祈り申し上げます。

オープニングには、京都聖母学院小学校合唱団の皆様にも、美しい歌声を御披露いただきました。今年は第26回国民文化祭2011が賑々しく開催されましたが、これからも京都から文化のこころを発信していただきたいと思いますと考えております。

さて、観測史上最大級の地震、大津波、原発事故、そして豪雨と、この半年あまりの間に私たちは幾度も大災害に見舞われました。今もなお不自由な生活を余儀なくされておられる方々にお見舞いを申し上げますとともに、尊い命を失われた多くの方々に心から哀悼の意を表します。復興への長い道のりは始まったばかりですが、日本国中そして世界各地からの支援が被災者の方々に無事に届きますことを願ってやみません。

今年度のフェスティバルは、この災害を通して私たち一人ひとりが、自分自身や家族・友人、ふるさとのために何ができるのかを考え、人と人、そして地域の絆の大切さを改めて学ぶ機会でありたいと、実行委員の皆様と企画検討を重ね、本日の開催を迎えることができました。

式典の後は、株式会社日本政策投資銀行参事役の藻谷浩介様に、震災後の日本の針路について御講演いただきます。ぜひ、皆様も一緒に、これからの日本の歩む道と男女共同参画のあり方について、考えていただければと思います。

また館内の各会場では、地域で実践活動を展開しておられる様々な団体のご参加により、ワークショップやバザールを出展していただいております。東日本大震災の被災地を応援する物産展も実施しておりますので、皆様どうぞお時間の許す限りご参加頂きたいと思っております。

さらに、本年度も府内の各地域でフェスティバルを開催いたします。6月には京田辺市さんで開催し、多くの方にお越しいただきました。京丹後市さんでは来る1月22日に、男性保育士の小崎恭弘先生をお迎えして開催いたします。みんながいきいきと暮らせる、よりよい地域づくりを考える企画となっておりますので、ぜひお問い合わせの上、足をお運びいただきたいと思いますと考えております。

本年、京都府の新しい男女共同参画計画である第3次「KYOのあけぼのプラン」が策定されました。一人ひとりが職場や家庭、地域の活動に参画し、輝くことができる男女共同参画社会の実現に向けて、本フェスティバルが、皆様のまた新しい一歩を踏み出される契機となりましたら、大変嬉しく思います。

最後になりましたが、今年度も、多くの企業・団体の方々にお力添えをいただき、このフェスティバルがこのように盛大に開催できましたことにお礼申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

祝 辞

京都府議会議長 近藤永太郎 様



「第23回KYOのあけぼのフェスティバル2011」が、御盛会のうちに開催されますことを、心からお慶び申し上げます。本日は京都府議会から多くの府議会議員が出席させていただいておりますが、府議会を代表いたしまして、謹んでご挨拶を申し上げます。

はじめに、本日、栄えある「京都府あけぼの賞」を受賞されます皆様、誠におめでとうございます。それぞれの分野において先駆的な活躍をされ、顕著な功績をあげられた方々であり、

心からお慶び申し上げる次第であります。

本年度で23回目を迎える本フェスティバルが、このように、府内各地、様々な分野からの参画を得て開催されますのも、田中実行委員長様をはじめ、関係の皆様方の御尽力の賜物であり、改めて、敬意を表する次第でございます。

さて、女性の社会参画は、着実に前進し、様々な分野において御活躍をされておりますが、一方で、女性の役職登用や労働条件をはじめ、女性に対する暴力など、まだまだ多くの課題を抱えております。

このような状況において、本日ご参加の皆様は、それぞれの分野で自らの力を発揮され、地域においても素晴らしい活躍をされている方々でございます。

皆様には、これからも男女を問わず、個性やその能力を最大限に活かすことのできる、活力ある社会の実現に向け、大きな力を発揮していただきますとともに、少子・高齢化や核家族化によって、家庭や地域が抱える課題をしっかりと見つめていただきながら、その解決に向けた取組みに御奮闘いただきますよう、御期待を申し上げます。

京都府議会は、引き続き、人権を尊重し、社会を構成する構成員それぞれが社会的な責任を果たし、個人の能力が十分に発揮できる社会の実現、また、その個性を活かしながら地域の力を再生し、安心・安全な社会を実現できますよう、全力を挙げて取組んでまいる所存でございます。

結びにあたり、このフェスティバルの御成功と、御臨席の皆様方の御活躍、御健勝を心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。